
日本ミルトン協会 会報

Newsletter of the Milton Association of Japan

Web版 Vol. 5 (2013)

IMS 10 東京大会

佐野 弘子

2012年8月20-24日、第10回 International Milton Symposium が青山学院大学で開催されました。2008年7月の第9回ロンドン大会の後、東京大会の立候補を構想してから、2011年3月に発生した東日本大震災と原発事故による1年の延期を含めて、諸々の事後処理にいたるまで、じつに4年半の歳月が費やされました。参加者は16ヶ国から約170名と、この種の国際学会としては盛会でした。日本ミルトン協会にとってこの記念すべき出来事を共に喜びたいと思います。

日本初のIMS開催には、本協会の前身である日本ミルトン・センターを設立され、運営・発展に多大なご尽力をされた越智文雄先生はじめ多くの先輩の先生方の思いが込められていました。その日に備えて寄附を重ね、積み立てられた基金が現日本ミルトン協会に引き継がれました。IMSへの立候補が承認された2008年10月の総会で、初代事務局主任を務められた辻裕子先生が基金の経緯をご説明され、協賛金の提供が決定しました。実行委員会は主に日本ミルトン協会会員から組織して準備に入り、会員の皆さまに積極的な参加と寄附のご協力をお願いしました。また、国際学会開催にあたっては会場校が必要であり、私の本務校である青山学院大学文学部英米文学科主催のかたちをとって、大学と学科に連なる英文学会・同窓会、大学内の各部署から金銭・人材両面での寛大な協力を得ることができました。日本英文学会からは「海外研究者招聘後援事業」第1号として基調講演者の宿泊費の一部助成、ブリティッシュ・カウンシルからは「後援」の名義をいただきました。

オーガナイザーとして私が心に留めていたことは、諸先輩の思いを引き継ぎ、新たな意義を果たしたいということでした。過去の開催時期では参加しにくかった日本人研究者に参加と発表を促すこと（最多の18名が発表）、日本におけるミルトン研究、ひいては英文学研究を活性化すること、一般の方々にミルトンをもっと知っていただくことでした。さらに、海外に向けては日本文化を紹介し、東西文化の融合による強力な発信を目指しました。このような学術的・文化的交流を図る目的でシンポジウム全体を構成し、テーマ別に、基調講演者計8名を4日間に2名ずつ組

み、また研究発表者3名1組のパネルを3教室並行で計27組設けました。初日夕方にレセプション、4日目夕方に晚餐会、5日目にミルトンと同時代の江戸の文化を紹介する、日光と東京の観光オプションを配置しました。

立候補の条件に求められた文化イベント二つは、シンポジウムのなかで重要でした。私は、一般にはキリスト教詩人としてとかく敬遠されがちなミルトンの芸術性を広く知っていただく良い機会と捉えました。ミルトンが同時代の作曲家ヘンリー・ローズと組んで仮面劇を書き、さらに後世の作曲家や画家にインスピレーションを与えて多くの芸術作品を創作させたことは、彼の詩のすぐれた音楽性・絵画性を示しています。本来、韻律をもつ詩は、文字で読むより耳で聴くほうがふさわしいので、ミルトンの詩を分かりやすく舞台芸術として上演することにしました。ミルトンの劇詩『闘士サムソン』の能化を詩人の高橋睦郎氏に依頼し、国立能楽堂において、国内外で活躍する宝生流シテ方の辰巳満次郎師ほか囃子方の人間国宝亀井忠雄師らの一流の演者によって上演したことは、英文学界のみならず演劇界でも画期的な試みでした。高橋氏の上演前解説、日英語の字幕使用、終演後のロビーでの出演者と学会参加者との交流は、大変喜ばれました。また大学チャペルでは、メゾソプラノの波多野睦美氏とリュートのつのだたかし氏ら、やはり一流の演奏家がミルトンの詩に作曲された音楽作品を演奏しました。『快活の人』・『沈思の人』にヘンデルが作曲したオードと、ローズが作曲した仮面劇『コーマス』のための抒情的作品、オラトリオの傑作であるヘンデル作曲『サムソン』とハイドン作曲『天地創造』のような宗教的作品、これらにイギリス人俳優ティモシー・ハリス氏による一人芝居のような見事な朗読をまじえたコンサートは、観客を圧倒しました。両イベントとも有料で一般に公開し、予想以上の観客を動員することができ、好評を博しました。

立候補以来、リーマン・ショック、円高不況、異常気象に加えて、震災後は余震、放射能、電力不足などの問題が最後まで私の気を揉ませました。しかし、5日間の全プログラムは順調に運び、出席者から好意的な感想をいただきました。数々の試練と苦労も、会場での熱気に満ちた討論やホワイエでの和やかな懇談など、国際学会らしいすべての場面のなかに溶解して、いまでは懐かしい思い出と化しています。その記憶は、会場となった本多記念国際会議場ホワイエの銘板に、「第10回国際ミルトン・シンポジウム 青山学院大学文学部英米文学科・日本ミルトン協会」と刻印されることになっています。IMS10が、国際学会としての役割、日本におけるミルトン研究の隆盛および普及、新しい芸術作品の創造……と、意図した目的の実現にいささかでも貢献できたとしたら幸いなことです。ここに、会員の皆さまのあたたかいご支援に心よりお礼を申し上げます。

日本ミルトン協会 第 8 回 研究会 報告

日時 2012 年 7 月 7 日 (土) 午後 3 時
場所 青山学院大学青山キャンパス総合研究所ビルディング第 17 会議室
発表

1. 道家弘一郎 「『失樂園』の贖罪観」
2. 森道子 「名声と流刑——オヴィディウスの『トリステア』とミルトン——」
(出席者 24 名)

日本ミルトン協会第 9 回研究会および 2012 年度総会報告

日時 2012 年 12 月 8 日 (土) 午後 2 時 30 分
場所 同志社大学今出川キャンパス寧静館 5 階会議室
発表

1. 塚口孝子 「ミルトンの科学観について」
2. 飯沼万里子 「イヴ再読——アダムの脅威として——」
(出席者 21 名)

総会 (司会: 圓月勝博)
議事録

1. 活動報告 (西川健誠)
西川事務局長より 2011 年度の活動について報告があり、了承された。
2. 2011 年度会計報告および会計監査報告 (川島伸博、小林七実、小山薫)
川島事務局委員から 2011 年度会計報告が報告され、小林・小山会計監査委員より監査の結果報告の通りで間違いなしとされた。総会出席の会員により了承された。
3. 2012 年度予算 (川島伸博)
川島事務局委員から 2012 年度予算が提案され、総会出席の会員により了承された。
4. IMS10 報告 (佐野弘子)
決算を含め IMS10 にかかわる最終的報告がなされる。残金 1,682,052 円については、まず 500,000 円を青山学院大学へ寄附し、IMS10 開催記念を本多記念国際会議場プレートに刻む費用とすることが佐野 IMS10 実行委員長から提案され、総会出席の会員により承認された。この 500,000 円を差し引いた 1,182,052 円については、大学側と協会側双方に分配するという IMS10 OC/MAJ 合同委員

会での合意案が佐野 IMS10 実行委員長から提出され、総会出席の会員により了承された。(最終的に、500,000 円を日本におけるミルトン研究の促進との趣旨で本協会に分配することとなり、1 月 9 日に同 500,000 円を受領した。「事務局だより」の関連の項目もご参照ください。)

5. 2013 年度行事予定について (西川健誠)

下記の通り提案され、了承された。

第 10 回研究会 7 月 6 日 神戸市外国語大学
第 4 回大会 (2013 年度総会を同時に開催)

12 月 6 日 フェリス女学院大学緑園キャンパス

(出席者 21 名)

日本におけるミルトン研究文献目録 (2012 年度)

川島伸博 「恋に落ちないミルトン——疑似ミルトン伝の系譜——」 *Osaka Literary Review* 50 (2011): 1-12.
道家弘一郎 「読解『失樂園』(二)」 『聖心女子大学論叢』 119 (2012): 5-42.

事務局だより

2012 年 4 月 13 日

MAJ『会報』4 号および 2012 年度行事予定を会員に送付。IMS10 関連の書類も同封 (登録申込書、振込用紙、ポスター等)。

7 月 7 日

第 8 回研究会、運営委員会 (出席者 6 名)。運営委員会議事録は次の通り。

1. 2011 年度決算および 2012 年度予算について
別表の通り。2011 年度決算が報告され、また 2012 年度予算案が審議される。(これらの監査結果および提案は 12 月の総会にて承認された。)
会費の納入率が前年に比べ低下気味であることが指摘される。また終身会員 (65 歳以上) の可能性について 12 月の総会の時まで検討することになった。
2. HP 移設について
笹川委員より報告。さくらインターネット株式会社提供のサーバに移設。URL は <http://www.maj.gr.jp> (2012 年 3 月 27 日より公開)。移設費は 16,815 円 (レ

ンタルサーバ利用料 5000 円、初期費用 1000 円、請求費発行手数料 315 円、ドメイン取得料 10500 円)。2013 年度は 13, 815 円が費用としてかかる予定。

8 月 20-24 日

本協会協賛の下 International Milton Symposium 10 を青山学院大学青山キャンパスにて開催。

12 月 8 日

第 9 回研究会。運営委員会（出席者 7 名。会計監査 2 名）。運営委員会議事録は以下の通り。

1. 2011 年度決算会計監査報告

2011 年度決算について会計監査委員から監査結果が報告される。

2. 2013 年度行事予定

第 10 回研究会 7 月 6 日 神戸市外国語大学

第 4 回大会・2013 年度総会 12 月 8 日 フェリス女学院大学緑園キャンパス

シンポジウムは笹川渉氏にオーガナイザーを依頼。後日テーマを「ミルトンの交友関係」とし、小林七実氏、川崎和基氏、加藤光也氏（駒沢大学）をパネリストとすることが決定される。

3. IMS10 報告

佐野 IMS10 実行委員長より、決算を含め報告あり。残金 1,682,052 円については、以下の通り決定された。

(a) 500,000 円を青山学院大学へ寄附し、IMS10 開催記念を本多記念国際会議場プレートに刻むことが佐野 IMS10 実行委員長より提案され、本委員会と IMS OC の合同委員会において承認された。

(b) 残金から (a) の 500,000 円を引いた 1,182,025 円については、IMS10 関連（例えば出版）に有効活用する案が佐野 IMS10 実行委員長から提案された。その場合は、IMS10 実行委員会とは別組織でおこなうことが確認された。

(c) 一方、青山学院大学、日本ミルトン協会の双方に返金する提案も委員から出された。

(d) (b), (c) の両案が検討され、1,182,025 円は青山学院大学側と本協会側に分配されることになった。（682,025 円が青山学院大学英米文学科へ、500,000 円が日本におけるミルトン研究の促進のため本協会へ。）

2013 年 1 月 9 日

日本におけるミルトン研究の促進のため、IMS10 実行委員会より 500,000 円を受

領（上記参照）。

訃報

本協会会員で法政大学名誉教授の大川明先生が 2012 年 7 月に逝去されました。先生は 1994 年に日本ミルトン・センターに加入なさり、ひき続き MAJ でご活躍下さいました。在りし日の先生を偲び、心より哀悼の意を表します。

日本ミルトン協会 2011 年度会計決算報告 および

2012 年度予算案

自 2011 年 4 月 1 日 至 2012 年 3 月 31 日

	摘要	2011 年度予算	2011 年度決算	2012 年度予算案
収入	会費	350,000	277,500	300,000
	前年度繰越金	1,685,332	1,685,332	1,898,008
	雑収入	0	715	0
	計	2,035,332	1,963,547	2,198,008
支出	通信費	70,000	45,664	70,000
	印刷費	0	0	0
	HP 管理費	30,000	16,815	30,000
	会場費	30,000	0	30,000
	振込み関連費	500	3,060	500
	次年度繰越	1,904,832	1,898,008	2,067,508
	計	2,035,332	1,963,547	2,198,008

基金会計: ゆうちょ銀行 1,000,000

日本ミルトン協会規約

1. 名称 本会は、日本ミルトン協会（The Milton Association of Japan）と称する。
2. 目的 本会は、日本ミルトン・センター（The Milton Center of Japan, 1975 年 7 月 18 日 - 2008 年 3 月 31 日）の事業と組織を継承し、ミルトン研究を促進することを目的とする。
3. 事業 以上の目的を達成するために、次の事業を行なう。
 - (1) 研究大会
 - (2) 研究会
 - (3) 広報活動
 - (4) その他
4. 組織 本会は、本会の主旨に賛同する者をもって組織する。
5. 役員 本会に以下の役員を置く。役員を選出については付則に定める。
 会長 1 名 事務局長 1 名
 事務局委員 2 名 企画委員 6 名
 ホームページ委員 2 名 会計監査委員 2 名
6. 機関
 - (1) 総会 本協会の最高決議機関とする。議長は会長が務める。
 - (2) 運営委員会 運営委員会は、本協会の運営に関する事項を審議する。委員長は会長が務める。運営委員会は、以下の役員によって構成する。
 会長 事務局長 事務局委員
 企画委員 ホームページ委員
 - (3) 事務局 事務局は、会計、機関誌の発行、その他の事務を担当する。
 - (4) 企画委員会 企画委員会は、研究大会・研究会等の企画を行う。
 - (5) ホームページ委員会 ホームページ委員会は、本協会のホームページの管理・運営にあたる。
 - (6) 顧問をおくことができる。
7. 会計
 - (1) 会費 会員の会費は年額 5,000 円とする。ただし、学生会員の会費は

1,000 円とする。

(2) 会計監査

会計監査は、原則として年 1 回、会計監査委員が行い、運営委員会および総会に報告する。

8. 規約の改正 本規約の改正は、総会における出席者の過半数の賛成によって実施する。

付則 役員を選出

- (1) 会長は、運営委員会の推薦に従って、総会において選出する。任期は 3 年とし、再任を認めない。
- (2) 会長は、運営委員会に諮った上で、役員を任命する。
- (3) 事務局長は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、最長 2 期とする。事務局委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、最長 2 期とする。
- (4) 企画委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、最長 2 期とする。
- (5) ホームページ委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、再任を妨げない。
- (6) 会計監査委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、再任を認めない。

9. この規約は、2008 年 4 月 1 日から施行する。

2008 年 4 月 1 日

2012 年 4 月 1 日改正

日本ミルトン協会 役員および委員

(2013 年 4 月 1 日現在)

顧問	新井 明	聖学院大学
	永岡 薫	滋賀大学 名誉教授

会長	圓月勝博	同志社大学
-----------	------	-------

事務局長	西川 健誠	神戸市外国語大学
-------------	-------	----------

事務局委員	川島 伸博	龍谷大学
--------------	-------	------

	富樫 剛	フェリス学院大学
--	------	----------

企画委員	桂山 康司	京都大学
-------------	-------	------

	川崎 和基	日本大学
--	-------	------

	中山 理	麗澤大学
--	------	------

	野呂 有子	日本大学
--	-------	------

	佐野 弘子	青山学院大学
--	-------	--------

	箭川 修	東北学院大学
--	------	--------

ホームページ委員	清滝 仁志	駒澤大学
-----------------	-------	------

	笹川 渉	北見工業大学
--	------	--------

会計監査委員	小林 七実	(同志社大学)
---------------	-------	---------

	小山 薫	同志社女子大学
--	------	---------

* () は非常勤講師

日本ミルトン協会 会報
Newsletter of the Milton Association of Japan
第 5 号

2013 年 3 月 31 日発行

編集者兼発行者 日本ミルトン協会
〒651-2187 神戸市西区学園東町 9-1
神戸市外国語大学 外国語学部
西川 健誠 研究室
振替番号01050-2-24883